

北本市立宮内中学校 家庭学習の手引き 3年生用

中学3年生はこんなとき

- 中学の最終学年として、勉強とともに、部活動や学校行事などのさまざまな活動がクライマックスを迎えるときです。
- 中学卒業後の進路を考えたり、定期テストだけではなく、実力テストも加わったり、自分自身や現実と向き合うことが多くなります。今の自分だけでなく、今後の自分はどうしたいのか…先を見据えた考えをもつ必要性が出てきます。

勉強のポイント！

- 1学期中に、中学1・2年生の復習を毎日（または毎週）少しずつでもいいのでやっておきましょう。
- 夏休みは、毎日必ず勉強するという習慣化と、高校受験に向けての自分の目標設定をしましょう。
- 2学期からは受験問題を解きながら、自分の弱点をどんどん見つけていき、その弱点を克服しましょう。各教科の復習を並行して行いましょう。
- 集中して学習できる環境や心の落ち着く人間関係づくりも大切です。家族や信頼できる友達との会話を大切に、円滑なコミュニケーションをとっていきましょう。



家庭学習の内容例 3年生

自分の進路実現に向けて、具体的な目標を自ら決め、粘り強い意志をもち、継続して取り組みましょう。

㊦ 学習時間のめやす 180分

国語

① 1日に文章題を1題必ず解く

3年生は常に『受験生』ということに意識しましょう。入試では全く知らない文章題を読解していかななくてはなりません。読解力を向上させていくための一番の近道は、とにかく多くの文章に触れることです。毎日1題文章題を解くという習慣を付けましょう。解いた後は解説を読み、間違えた所はなぜ間違えたのかを考え、分析しておきましょう。これを続けるだけで読解力がかなり向上します。

② 文法・漢字などの基礎的な知識は反復を

文法や漢字、ことわざ・慣用句などの知識問題は隙間時間などの短い時間を有効的に活用し、反復演習を行いましょ。公立入試でも出題される分野なので、細かいところまで丁寧に覚えておきましょう。

③ 古典に対する苦手意識をなくそう！

古典の勉強をしなさいと言われるとそれだけで身構えてしまう人が多いと思いますが、古典はじっくり読んでみると面白い話や、人生の教訓になるお話が非常に多いです。『古今著聞集』や『宇治拾遺物語』、『徒然草』などは読みやすいので、易しい物から慣れていくとよいでしょう。また、現代仮名遣いに直すなどの基礎的な技能は早い段階で身に付けておきましょう。



④ 読書を習慣化する

勉強とは少し離れてしまいがちですが、国語の力をつけるためには、日頃の読書が非常に大切になります。読書は勉強の息抜きにもなりますし、同時に読解力を高められるので一石二鳥です。どんな本でも構わないということではなく、読解力を身に付けたいのであれば、読む本にも少しこだわっていきましょう。具体的には、ライトノベルや携帯小説、漫画を題材にした小説本などは読解力を身に付けるという意味ではふさわしくありません。文学的な要素の強い本や、教養を深められる新書を読んでいくとよいでしょう。入試でよく使われる作家さんもいますので、機会があれば手に取って読んでみましょう。



<入試頻出作家>

文学的文章	浅田次郎	重松清	角田光代	吉本ばなな	山田詠美	綿矢りさ
	宮本輝	江国香織	など			
説明的文章	内田樹	鷺田清一	池上彰	など		

応用問題が解けないときは、問題集などにあるいろいろな問題を数多く解き、様々な形で出題される問題になれることが大切です。

② 途中の計算や解き方を丁寧に書く

答えだけを書くのではなく、途中の計算や解き方を丁寧に書く習慣をつけましょう。わかっているつもりでも勘違いをしていることもあります。途中の計算や解き方が書いてあれば、丸つけのときに、どこでどう間違えたのかを見つけることができます。それが大切なのです。間違えた問題は、どこで間違えたのかを確認し、もう一度やり直しましょう。間違えた問題をチェックしておき、何日かしたらもう一度その問題に挑戦し、確実に自分のものにしていきましょう。

③ 復習をして何回もくり返して練習する

授業で学習した内容を身につけるには、ワークや教科書の問題を何回もくり返し復習することが大切です。例えば、問題集の問題は、すぐに答えを書きこまず、1回目はノートにやる。2回目、もしくは3回目に問題集に書きこむなど、同じ問題を2～3回繰り返し行いましょう。

内容に応じた解き方を身に付けることも大切です。例えば、関数では、グラフや表を書き、関数の式をまとめる練習も大切です。証明問題は、例題を見て、内容やしくみを考えます。関数と図形の混ざった総合問題にも挑戦していきましょう。

④ 公式を使えるようにする

数学の公式や定理は、丸暗記するだけではなく、問題に合わせて使えるようにしてはなりません。公式や定理にある文字や言葉が何を表している、どのようなときに使えるのか覚えるようにしましょう。



日頃の学習をきちんとやっていけば、それが受験勉強につながります。答えを導くまでの過程を大切に、くり返し学習を行ううちに、少しずつ力がついてきます。わかった楽しさ、自分で問題が解けたときの喜びをたくさん味わいましょう！

理科

① 理科の知識を身に付けよう！

まずは理科の知識をしっかり身に付けることが重要です。教科書や授業ノートを確認しながら、自分なりに学習内容を整理し、ノートにまとめましょう。

また、理科の重要語句がまとめて書かれているワークなどを利用したりすることで、重要語句とその仕組みや関連性がわかるようになり、効果的です。



② 問題演習を繰り返し行う

次に知識がしっかり身に付いているか確認するために、ワークなどの問題を解きます。間違えた問題やわからなかった問題は、ただ答えを確認するだけでは全く意味がありません。その問題にはチェックをしておき、ワークの答えの解説や教科書などを確認して理解できるようにしましょう。そして、それが身に付いたか確認するために再び解き直すようにしましょう。また、問題を繰り返し解くことで、問題形式になれることができるとともに、知識の定着にも繋がります。

③ 苦手な単元を把握して、克服しよう！

理科には物理・化学・生物・地学の4分野があり、すべて勉強しなければなりません。数学などと異なり、積み上げ型の教科ではないため、得意な単元と不得意な単元がはっきりと分かれてきます。問題演習を繰り返し行うことで、自分が苦手と感じる単元がわかってくると思います。得意な単元の勉強ももちろん大切ですが、不得意な単元の問題を繰り返し解き、克服することはとても重要です。根気強く勉強しましょう。

④ 実験・観察の操作を確認しておこう！

理科の問題は実験・観察をもとにした問題が多く出題されます。実験・観察によって何を調べているのか、何がわかったのか、また実験・観察で行った操作を確認しておきましょう。

英語

① 予習よりも復習をしよう！

英語では、新しい文を学習したら、該当のワークをやってみましょう。書く時は発音しながら書くとよいと思います。授業中に発音練習したことを思い出しながら、何度も言って書くことで手と耳と口で覚えます。授業で本文を読んだあとは、本文を暗記するまで音読するとよいでしょう。言えるようにしてから、ぜひ書いてみましょう。ワークは時間をおいて何度も繰り返すことで定着します。学習した文を用いて、オリジナルの文を書いてみましょう。

② 単語や文の書き方要注意！

例えば、alphabet という単語を書き写したりする時に、al, ph, abe, t のように1つの単語を区切って書いていませんか。それでは何回書いても絶対覚えることはできません！まず、1つの単語は一度に全て書きます。それができるようになったら、一度に書く単語の数を増やしていきます。その時に、自分が書いたものが正しいかどうか必ず確認しましょう。これを雑に行うと間違えて覚えてしまいます。3年生は特に基本単語や連語などは正確に書けるようにしておきましょう。



③ 結構使える英語検定の問題！

入試に向けて、聞く、読む、書く、の総合的な力を付けなければなりません。特に県公立高校の問題を見ると、かなりの語数の長文を読まなければなりません。また、毎年必ず英作文が出題され、リスニングもあります。長文については、教科書の本文の量だけでは残念ながら足りません。英語検定の問題は総合的な力を試す問題なので、入試の練習にもピッタリ！3級以上では英作文も出題されるので、ぜひやってみましょう。